

肉用山羊肥育技術マニュアル



1	肥育管理の手順	P1
2	肥育開始までの準備	P2～3
3	肥育管理のための施設や設備	P3
4	肥育開始時の日齢、体重	P4
5	給与飼料	P4
6	飼料給与方法	P4～5
7	飼料摂取量	P5
8	発育、枝肉成績	P5
9	肥育のポイント	P6
10	肉質の分析	P6
11	肉用山羊の試食アンケート調査	P6
12	参考資料	P7

平成28年1月

おきなわ山羊生産振興対策事業

沖縄県

肥育管理の手順

1. 生後から肥育開始まで（0～4.5ヶ月）

粗飼料給与による腹づくり

- ①導入前に山羊房の洗浄、消毒、乾燥
- ②除角
- ③去勢
- ④駆虫、削蹄

2. 肥育開始（4.5～10ヶ月）

濃厚飼料を中心とした肥育

- ①給与飼料の設計と台帳の作成（給与量、残飼量、摂取量）
- ②給与飼料の馴致
- ③飼料給与と給与量の増量
- ④削蹄
- ⑤体重測定（増体確認）
- ⑥健康管理

3. 出荷（10ヶ月～）

スムーズに出荷するための計画策定

- ①と場調整（出荷日、頭数）
- ②枝肉の流通・販売の確保
- ③健康確認（と場に申告）
- ④出荷前体重測定
- ⑤出荷



沖縄県畜産研究センター(以下当所)において、平成 24年度から平成 26年度までに実施した肥育試験(86頭)のデータに基づいて、肥育技術マニュアルを作成しましたので紹介します。

1. 肥育開始までの準備

- 1) 山羊の腹づくりのため、肥育開始までに良質な粗飼料を給与する。
- 2) 群飼や管理を容易にし、山羊同士の競合を避けるために除角を行なう。
 - ア 実施時期: 角の再生防止及びストレス低減のため、早期に実施する。
(当所では生後 10日以内)
 - イ 除角方法: 電気除角器(デホーナー)を用いて角芽部周囲を焼き切る。
電気除角器がない場合は、焼いた金属パイプで代用できる。



写真1 除角後



写真2 電気除角器

- 3) 肉質改善や群飼を目的として、生後 3 ヶ月齢で去勢を実施する。
去勢方法は、出血が伴わないゴムリング去勢法を推奨する。(写真 3、4)



写真3 ゴムリング装着 1週間
(陰嚢は萎縮・乾燥)



写真4 1週間後に切除
(化膿や炎症がない)

- 4) 病気の発生を防止するため、山羊房の洗浄、消毒及び石灰の散布を行う。
- 5) 内部寄生虫防除のため、駆虫剤(イベルメクチン製剤)を投与する。
- 6) 蹄の管理のため、削蹄(整形)を行う。

2. 肥育管理のための施設や設備

- 1) 高湿度を避けた快適な環境下で肥育を行う。
- 2) 山羊房は風通しのよい高床式(メッシュ)を推奨する。
平床の場合は、敷料を十分に敷いて、アンモニア臭の発生を防止するために
まめに敷料を交換する必要がある。
- 3) 飲水を自由にできるようにする。ニップルを設置すると便利である。
- 4) 鉱塩を自由に舐めることができるよう、壁面に鉱塩台を設置する。
- 5) 山羊房は、山羊の発育を考慮して十分な広さを確保する。

◆表1 山羊房の構造(畜産研究センター)

飼養頭数	間口幅	奥行	壁の高さ	高床構造
3頭	2m	3m	1.14m	0.6m



写真5 山羊房(畜産研究センター)